



市辺地区まちづくり協議会広報誌

いちのべ

# 万葉のまち 市辺

第35号

平成28年4月



## 糠塚町翼神社 春の大祭

発行:市辺地区まちづくり協議会／東近江市市辺町2391  
市立コミュニティセンター内 TEL&FAX 050-5802-3392  
ホームページ 万葉のまち市辺 <http://www.ichinobe.com/>

万葉のまち市辺 検索



# 市辺地区まちづくり協議会臨時総会を開催(3/2・3/23)



須田智廣新会長

3月2日、市辺コミュニティセンターにおいて、平成27年度市辺地区まちづくり協議会臨時総会が開催されました。総会は、平田政信氏（野口町）を議長に選出し、議案「平成28年度役員の選出」について活発な質疑応答のもと、評議委員会より推薦のあった須田智廣（すだともひろ）氏を平成28年度市辺地区まちづくり協議会会长に

選出しました。

なお、3月23日、同会場において平成27年度市辺地区まちづくり協議会臨時総会が再度開催されました。総会では、高橋康夫氏（船岡町）を議長に選出し、市辺コミュニティセンター業務主任者（館長）に高頭勇次氏を選出しました。



## 柳本公民館の皆さん（奈良県天理市）と交流会開催



1月17日、市辺コミュニティセンターにおいて柳本公民館の皆さん23人との交流会が開催されました。

柳本公民館は奈良県天理市柳本町にあり黒塚古墳（国史跡）に隣接し、行燈山古墳（崇

神天皇陵）や渋谷向山古墳（景行天皇陵）などがある歴史のまちであり、柳本校区の世帯数は2,173世帯、人口は5,444人です。

はじめに、市辺まちづくり協議会から歓迎の挨拶がされ、つづいて双方の参加者が自己紹介を行いました。



次に、プロジェクトにより市辺地区の概要や市辺地区まちづくり協議会の各部の活動が紹介されました。  
「まち協」を柳本校区で設立される参考にするため来訪されたもののです。交流会では「行政からの活動助成の金の流れは？」、「指定管理でコミセンが変わった事は？」、例えば社会教育事業や施設利用の制約などについて」「地域活性化の観光事業の取組は？」、「少子高齢化、高齢者への取組は？」など多岐にわたる意見交換がされました。



## 布施山に「布施城跡」標識看板を設置

市辺地区まちづくり協議会歴史文化部会では市辺れきし発見塾のDVD「布施山城をたずねて」第3部で布施山城主の分家の城であった「大森城跡」をレポートして、大森城跡が整備されている姿を見ました。そこで「市辺地区も



布施山城跡の案内の標識板を設置しなければならない」との部員一同の意見で設置することに決定しました。

歴史文化部会の中に、金属加工の仕事をされている方がおられ材料費だけで製作してもらいました。さび止めとペンキ

塗りは歴史文化部会の部員が行い、看板の文字については、近くの自動車板金工場にお願いしました。

皆さんの協力で、安い費用で、年度末ギリギリの3月31日に出

来上りました。

標識看板は全部で13本あり、11本は山の頂上の城跡まで道具と共に運ばねばならない重労働のため、地元布施町の「布施の溜池周辺を守る会」のボランティア団体に協力を求めました。

険しい山道を10キロの看板とハンマー、脚立等を、背負って登りました。部員と「守る会」の方など15人が力を合わせ、無事設置することができました。看板は小学生にも分かるように説明文もありますので、多くの方が登って下さるよう期待しています。

なお、布施公園の入口右に「布施氏の兵士」が道案内をしていますので、一度訪れて、中世の時代を偲んでください。



# 市辺地区福祉活動推進会議の 福祉のまちづくりについて

この会議が発足したのは、今から5年前で、行政のかかわらない福祉のまちづくりについて考える組織です。

平成26年度から認知症問題について考えてきました。高齢者の5人に一人が認知症になるといわれる昨今、認知症になってしまっても、住みなれた町で暮らしたいと私たち高齢者は思っています。

昨年11月、東市辺自治会で認知症患者の見守り訓練がありました。たくさんの人々が見守り訓練に参加され、日常会話の機会もない人たちとのつながりが出来ました。

認知症は高齢者だけの問題ではありません。これからも地域のつながりや福祉のまちづくりを考えて行きたいと思います。  
市辺地区  
福祉活動推進会議  
座長 平尾 彌一



認知症患者の見守り訓練の模様

# 消防放水訓練を実施(東市辺)

3月6日、東市辺町自治会と自主防災組織により消防放水訓練が実施されました。この消防放水訓練は毎年3月に行われており、できるだけ多くの人が参加できるように町内を3つのグループに分けて行われています。



3年間で延べ200人が訓練に参加されており、今年は約70人が、東近江市消防団第6分団の指導を受けました。

訓練は5人1組で、消防栓にスタンドパイプ・ホース・筒先の接続、確認の伝令などを行い、その後、実際に放水の訓練をされました。



自主防災組織事務局の東野さんはケーブルテレビの取材に「このような訓練は防災組織を立ち上げてから4回目になる。毎回、子どもさんから女性、年配の方まで幅広い方に参加してもらって、住民の方々の中に浸透してきていると実感しています。今後もやり方を改善して続けていきたい」と述べておられました。

## 新企画

## このまちにの人

陶芸

柏町 山田誠信さん



現役時代は仕事以外は無趣味の状態で退職後の生活に思案をしていましたが、工業高校窯業科卒業の知識を活かせ、自分の性分に合うのではないかと思う陶芸に挑戦し、8年が過ぎました。当初はある陶芸教室に通いながら我流の道を歩んでいましたが、限界を感じ、滋賀県レイカディア大学陶芸科で2年間陶芸の基礎を学びました。

粘土・作陶から焼成まで全ての工程を陶芸教室で行っていましたが、1年前から作陶から乾燥を終え、釉薬掛けまで自宅するようになり、最終工程の焼成のみ陶芸教室にお願いしています。自前の釉薬も手掛けるようになりました。(小さくとも窯がほしいのですが、手が出ません)

5年前と昨年、八日市図書館ギャラリーで無謀とは知りつつ作品展をさせていただきました。

陶芸は「奥深く、自分を実現」出来るものと思います。今年はこれまでの確認の為にも東近江市展に挑戦したいと思っています。



## 禁煙支援出前講座と 健康福祉部 昭和のメロディーで認知症予防

◆1月30日、健康福祉部主催の「健康講座」が開催されました。第一部は「禁煙支援出前講座」です。この講座では、タバコによる健康被害や受動喫煙の危険性をよく耳にすることや、職場や公共施設でも禁煙・分煙が当たり前になってきました。「タバコについて聞いてみたい」「皆で禁煙に取組むきっかけになれば…」と思っている方は多く、そんな皆さんのもとへ薬剤師の石田さき子さんに出前講座に来ていただき、タバコの害について認識を深めました。

◆第二部では、認知症予防の観点からも大切な脳の活性化を「昭和のメロディーを皆で楽しく歌おう」として取組みました。「いつでも夢を」から始まり、「酒よ・高校三年生・お富さん」など昭和歌謡を大合唱。講師の東岸佐優里さんから「1人で歌うよりも、皆の歌声を聴き影響されながら歌うことで、より大きな脳の活性化ができるのです」との説明を聞いて、大きな声で楽しく熱唱されていました。



# 部会だより

## 安全安心部

安全安心部は、2月28日に八日市消防署にて普通救命(AED)講習会を開催いたしました。各地区より7名の参加をいただき、救急救命士の方に心臓蘇生やAEDの取り扱いについて実技指導をしていただきました。万が一のケースに遭遇した場合、こうした講習が少しでも役立つことを期待しています。

また、前年度より着手致しました市辺地区の防災マップ作成については、各地区自治会より提出していただきました水害危険箇所および、交通危険箇所の防災マップへの書き込みを行いました。引き続き今年度も更なる危険箇所等に関してマップに追記していく予定です。各地区役員や住民の皆様のご協力をお願いいたします。

安全安心部 柴田俊幸

て使われていた酒蔵に当時の樽や用具が展示されていて、判りやすい説明の下、どこからとなく酒造り歌が流れてきて快い一刻でした。見学順路の最後には、試飲コーナーがあり、高級酒をほんの少し味わうことができました。

朝少し積もっていた雪も消え、暖かな一日で楽しい研修となりました。

## レタス出前講座

2月20日に予定していた「レタス配布、出前講座」は天候不良のため、27日に延期しました。日程変更になったにも拘わらず、沢山の方が参加してください、用意していた200本の苗は、完全に配布し終えました。大切に育てていただけると思います。

その際には、沢山の募金を賜りありがとうございました。大切に活用させていただきます。

自然環境部 小西恵美子

## 歴史文化部

### 布施の溜池の成り立ちと歴史

2月14日、市辺コミュニティセンターにて東近江市教育委員会歴史文化振興課の嶋田直人さんを講師にお迎えして、市辺れきし発見塾を開催しました。今回のテーマは「布施の溜池の成り立ちと歴史」です。平安時代に作られた歌謡集『梁塵秘抄(りょうじんひしょう)』にも歌枕として記されている布施の溜は、古くから風光明媚なところとして都にも知られていたそうです。

また、「布施山(玉緒山)はおよそ7,000万年前の火山が噴火した際にできた湖東流紋岩類と言う大きな岩の塊でできており、愛知川の伏流水がこの岩にぶつかって地表に出て湿地帯になったのが布施の溜の最初の状態と考えられる」と、地理的な特徴についても詳しく解説していただきました。水があるところには人の暮らしがあり、古くからこのあたりには人が住んでいたことが、遺跡からわかるそうです。そして、より効率的・安定的に水利用ができるように、渡来人の技術により溜池が作られたのではないかとのことでした。

身近にある布施の溜について初めて知ることも多く、約30人の参加者は熱心に聞き入り、活発な質疑応答もあり、さらに関心を深めています。

## 編集後記

私たち「市辺まちづくり協議会」は「わくわくこらぼ村」で続けて村長賞を受けるなど、活発な活動をしていると言われています。

しかし、全ての部会が活発なのでしょうか。

また、全ての年齢層が参加している訳ではなく、偏りが有るよう思います。

百花繚乱、今の季節の花のように、全ての人々が参加できる「市辺まち協」となるよう、みんなで活動を進めて行きましょう。(徳)

## 子ども健全育成部

私たち「子ども健全育成部」は、子ども達の健やかな成長を願って「どの様な事をすればよいのか」を考えています。年度初めの部会で「今年度は、何をすればよいのか」を相談するとき、まず壁に当たるのは、子ども達も忙しいということです。少なくない子ども達が休みの日もスポーツクラブや習い事に通っています。そんな思いを持ちながら昨年度は、子ども達を対象にした「子ども防災セミナー」を計画しました。準備段階では、子ども会連合会、地域教育協議会、安全安心部の皆様の協力を得ながら、まち協会長さんと共に消防署へ相談に行き、市役所へもお願いに上がりました。

実施は12月でしたが、子ども会の親子50人が参加して下さいました。消防士さんから「地震が起きたらどうすれば良いのか」を教えていただきました。また、女児が防災服を着て、パワー溢れる消火訓練を行う様子を目にした時、この子供たちが地域の見守り活動を支えてくれるのだろうと思いました。

今年度も皆さん之力をお借りし乍ら、多様な活動ができるよう頑張りますので、皆様のご協力をお願いいたします。

子ども健全育成部 中村好美

## 自然環境部

### 見学研修

子どもや孫たちへの未来に美しい地球環境を残したい、そんな思いで活動しています。

2月10日、恒例の見学研修を行いました。今年度初めて高速道路を使って県外へ出かけました。京(みやこ)エコロジーセンターは小学生でも解り易いような模型や標本が並べてあり、ボランティアによる説明も、初めての人にも解りやすいようにとの配慮だそうです。

建物にも、設備にも、環境にこだわった工夫がなされており、我々の家庭でも取組めば、省エネにつながるヒントが一杯、とても勉強になりました。

昼食のあと訪問したのは、月桂冠大蔵記念館でした。かつ